

「地質情報展 2023 きょうと —地質を知ってまもる古都の未来—」開催報告

金子 翔平¹⁾・宍倉 正展¹⁾・小松原 純子¹⁾・利光 誠一¹⁾

1. はじめに

「地質情報展 2023 きょうと」が、産業技術総合研究所（産総研）地質調査総合センター（GSJ）・関西センターと日本地質学会の主催、山陰海岸ジオパーク推進協議会の共催のもと、京都大学吉田キャンパス 吉田南 1 号館地階（京都府京都市）で9月16日（土）～18日（月）の3日間開催されました。1997年に始まった地質情報展は、今回で27回目になります。京都での開催は2005年の同会場における実施に続くものです。従来の地質情報展と同様に親子連れの方々を主対象と考え、京都周辺の地質と地震災害をテーマに企画しました。2023年3月の「地質情報展 2023 いわて」では、東北センターに主催に加わっていただきましたが、今回の地質情報展では関西センターに加わっていただき、企画・実施しました。

なお今回は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着きを取り戻しつつある時期の実施であったため、感染症の拡大防止に努めながら、コロナ禍前に近い形で開催しました。

2. 展示内容と会場の様子

地質情報展の初日（9月16日）に同会場で実施した開会式では、主催であるGSJの中尾信典総合センター長の開会挨拶に続き、産総研関西センターの辰巳国昭所長、日本地質学会の岡田 誠会長からのお言葉をいただきました（第1図）。

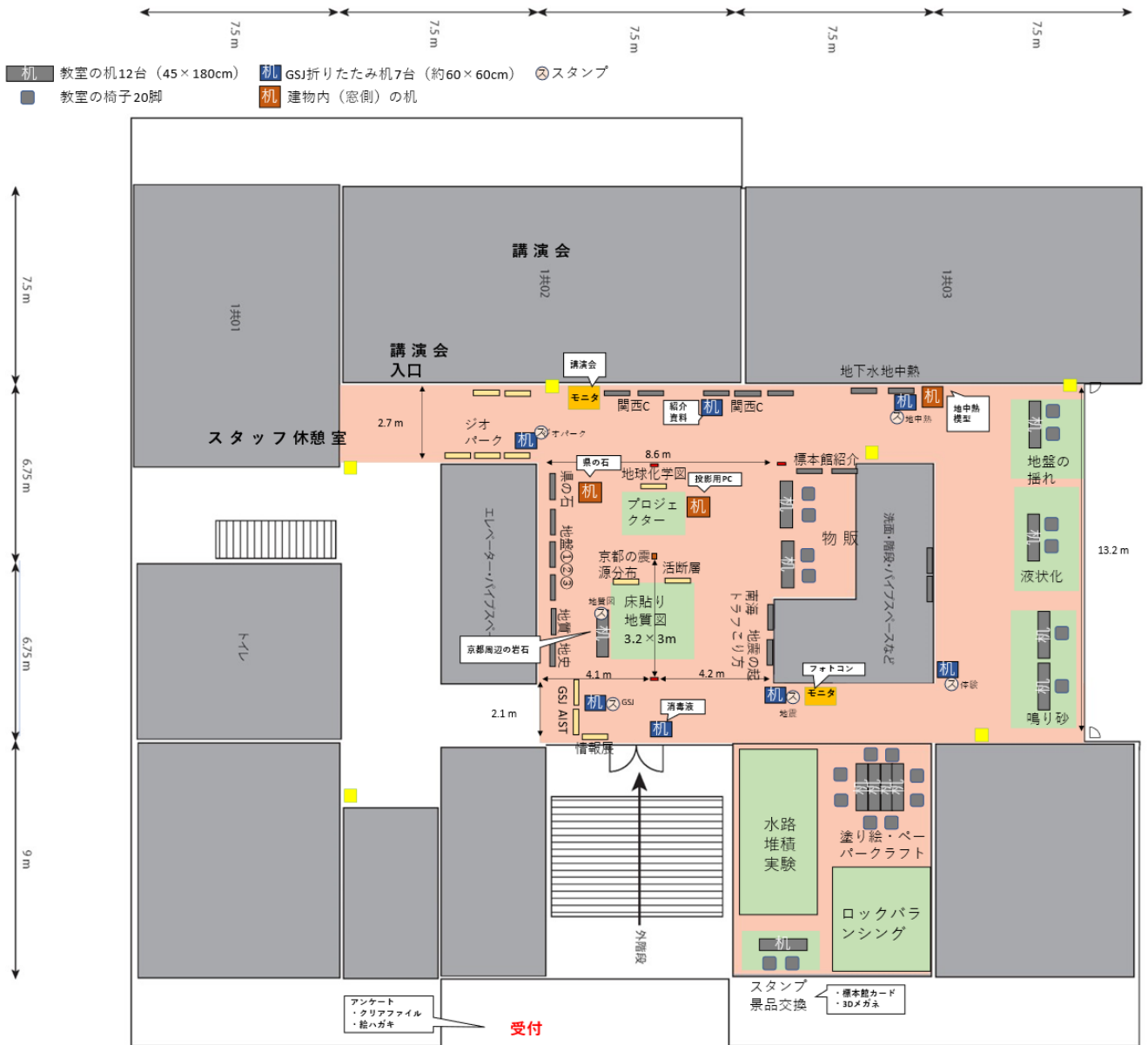
地質情報展会場での展示物の配置を第2図に示します。会場前には地質情報展の受付用にテントを設置しました。地上から会場入り口へ向かう階段の手すりに沿って、地質



第1図 開会式の様子

1) 産総研 地質調査総合センター連携推進室

キーワード：地質情報展、アウトリーチ、防災・減災、地震災害、ジオパーク



第2図 展示の配置図

標本館所蔵の標本をさまざまな角度から紹介する、「おすすめ標本ストーリー(地質標本館のウェブサイトで公開中)」に掲載の写真を展示しました。会場入り口をすすむ目の前には、大型の床貼り地質図として近畿地方を中心としたシームレス地質図(3.2 m × 3.0 m)を設置しました(第3図)。また、その先には「地球化学図」をプロジェクターで床置きスクリーンに投影しました。床貼り地質図の周辺には、「京都地域の地質年表」、「20万分の1地質図幅『宮津』」、「京都盆地の地下地質構造」、「京都盆地の第四紀地質見学地点」、「京都盆地南部の地盤」、「京都周辺の活断層」、「地震の起こり方」、「南海トラフで発生する巨大地震」、「京都盆地周辺の地震活動」、「京都府の岩石 鳴滝砥石」、「地球化学図—元素濃度で見る地図—」などのパネル展示を行

いました。更に奥には山陰海岸ジオパーク推進協議会によるジオサイト紹介や防災に関するパネル展示とともに、その隣には関西センターの地質・資源関連研究および企業連携紹介、そして「水文環境図」、「地中熱利用システム～足元にある再生可能エネルギー～」を配置しました。

加えて、「地盤のゆれ実験」、「地盤の液状化実験」、「鳴り砂」、「水路堆積実験」、「比叡山周辺の塗り絵とペーパークラフト」、「ロックバランシング」の体験ブースも出展し、上記のパネルと併せて、GSJのスタッフが来場者に対して実演と説明を行いました。これらの体験ブースでは単なる図や文字の説明だけではなく、現象を実験で見ることができるので、来場者の方々の理解がより深まったようです。日本地質学会からは、第14回惑星地球フォトコンテストの



第3図 会場内の様子



第4図 講演会の様子

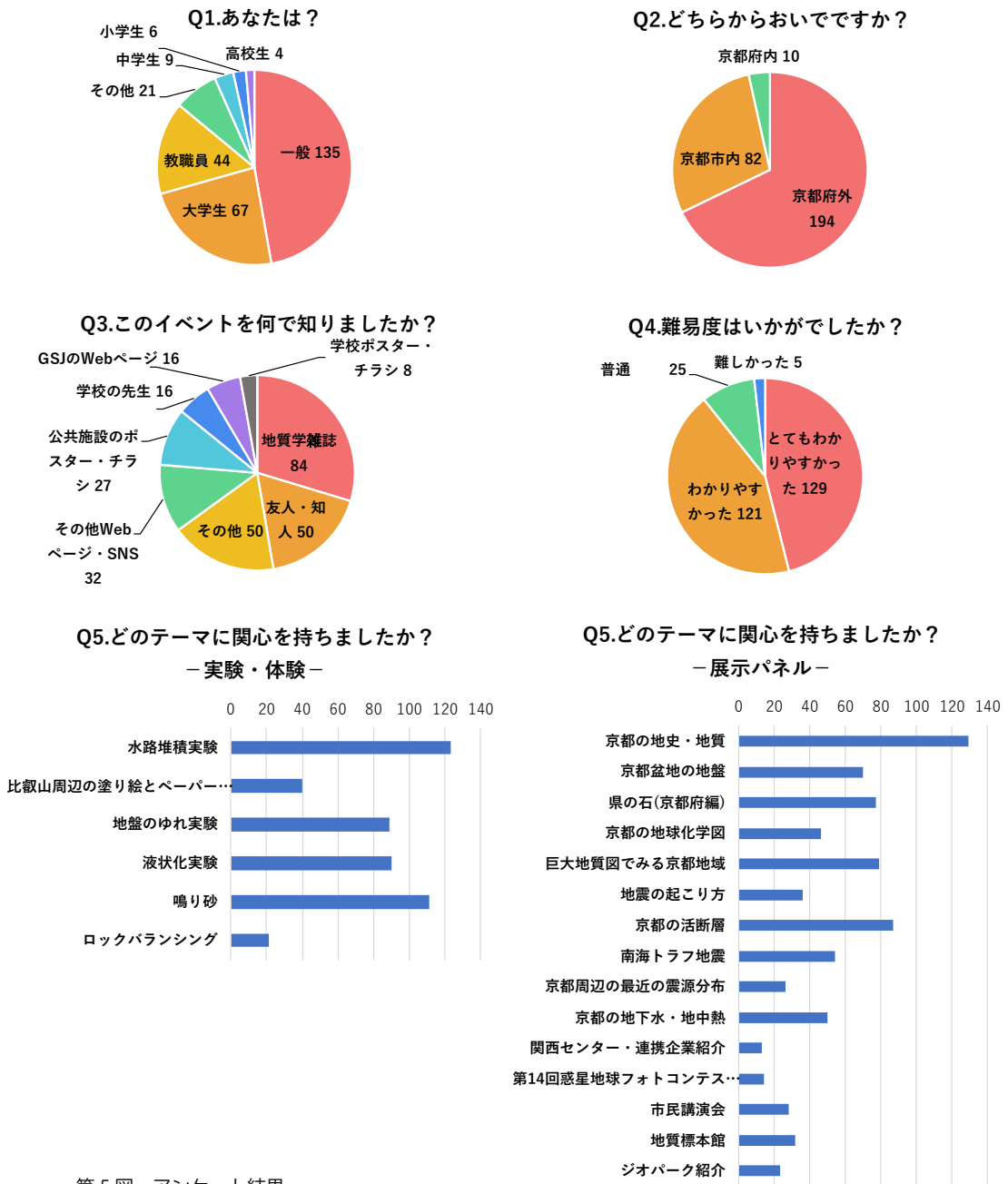
入選作品 12 点の展示を行いました。また、京都周辺の地質図幅や地質標本館のミュージアムグッズの販売も行いました。

この他、会場内の教室を使用し、GSJ ミニ講演会として、16 日午後には寒川 旭氏から「遺跡は語る 京都を襲った大地震」、18 日の午後には小松原 琢氏から「京都の土地のなりたち」および武藤 俊氏から「京都府の岩石」のタイトルでそれぞれ講演いただきました(第4図)。

開催3日間で約800名を超える来場者がありました。開催時に実施したアンケート結果では「地震や津波、液状化などの自然災害の仕組みがよく分かった」「とてもためになった。座学では学べないことを視覚で見られてよかった」等の感想をいただきました。多くの来場者にご満足いただけたことは、開催した側にとって大きな励みとなりました。

3. 来場者数と来場者からの声

地質情報展開催中は、来場者の方にアンケートを実施し、286名から回答をいただきました(第5図)。質問項目は次のとおりです：「Q1. あなたは？(年代層の問いかけ)」、「Q2. どちらからおいでですか?」、「Q3. このイベントを何で知りましたか?」、「Q4. 難易度はいかがでしたか?」、「Q5. どのテーマに関心を持ちましたか?」。今回は一般と大学生の参加者が多数を占めていました。また、京都府外からの来場者が多く、地質情報展のイベントを知った理由としては「地質学雑誌」「友人・知人」が半数近くを占めることから、日本地質学会関係者(学会への参加者)が多かったことが読み取れます。一方で、地質情報展のイベントを知った理由の「その他」の回答として、「通りすがりの方」や「親」



第5図 アンケート結果

「家族」と回答されていた方もおられました。展示内容に関する難易度については「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」の回答が75%以上となりました。関心を持ったテーマについては、実験・体験コーナーでは、「水路堆積実験」が最も回答者数が多く、次点で「鳴り砂」でした。展示パネルは「京都の地史・地質」が最も回答者数が多く、次点で「京都の活断層」が参加者の関心を集めていました。

来場者からいただいた、アンケートの自由記述欄の文章について、代表的なものを抜粋いたします。回答いただいたほとんどの方から肯定的なご意見をいただきました。

・とても楽しかったです。ありがとうございました。

- ・地球化学図で自分の地域に何がどのくらいあるか知れておもしろかったです。
- ・実験などがとても多く、楽しみながら周ることができました。
- ・とてもためになりました。座学では学べないことを視覚で見れてよかったです。
- ・3歳の子どもの、とても興味深く見せて頂きました。ありがとうございました。
- ・地質に興味があったので、全体的に楽しめました。説明は丁寧で納得いくまで説明がいただけ、興味が深まりました。地質図 Navi とシームレス地質図の違いを説明い

第1表 地質情報展2023きょうとの運営体制

2023年度地質情報展企画運営委員会										
企画運営委員										
田中裕一郎	伊藤 剛	宮嶋佑典	松本 弾	森田澄人	宮下由香里 (～2023.7.31)	小松原純子 (2023.8.1～)				
穴倉正展	金子翔平	利光誠一	中澤 努							
事務局支援										
川畑史子	長江敦子	齋藤 眞								
「地質情報展2023いわて」実施スタッフ										
パネル作成										
伊藤 剛	中江 訓	辻野 匠	宮地良典	白濱吉起	行谷佑一	松本 弾	澤井祐紀	谷川晃一朗	伊尾木圭衣	嶋田侑眞
穴倉正展	井川怜欧	富樫 聡	石原武志	遠山知亜紀	堀川晴央	村井健介	藤井奈美			
会場運営・解説等										
中尾信典	田中裕一郎	伊藤 剛	村井健介	藤井奈美	宮下由香里	小松原純子	穴倉正展	金子翔平	中澤 努	小松原 琢
武藤 俊	遠山知亜紀	白濱吉起	堀川晴央	井川怜欧	伊尾木圭衣	齋藤 眞	長江敦子	山谷忠大	百目鬼洋平	柳澤教雄
山崎 瞳	中川圭子	豊田信太郎								
体験コーナー説明										
落 唯史	松本 弾	宮地良典	川邊禎久	兼子尚知	嶋田侑眞	利光誠一	宮嶋佑典	森田澄人		
GSJミニ講演会										
寒川 旭	小松原 琢	武藤 俊								
告知ポスター・チラシ・WEBページ作成										
清水 恵	都井美穂	川畑 晶	正根寺幸子							
パネル校正・レイアウト										
清水 恵	金子翔平									

ただけ、理解が深まった。

- ・土砂災害における地質(地学)の役割を示す展示があったら市民にアピールできる

4. おわりに

今回の地質情報展の運営体制を第1表に示します。「地質情報展2023いわて」(2023年3月10～12日)から約半年での開催となり、準備で慌ただしくなる中、GSJや関西センターの多くの方々にご支援・ご協力いただきました。併せて、会場である京都大学の関係者の方々、日本地質学会事務局の方々、会場運営に協力していただいた大阪公立

大学の学生の皆様、イベント情報の発信に協力いただいた産総研ブランディング・広報部の皆様にもこの場を借りて御礼申し上げます。

なお、今回の展示で使用した展示パネルは、GSJのWEBサイト「地質情報展ポスターアーカイブサイト」で画像の閲覧ができますので、学校などの教材等としてご活用いただければ幸いです。<https://www.gsj.jp/event/johoten/archives/index.html>

KANEKO Shohei, SHISHIKURA Masanobu, KOMATSUBARA Junko and TOSHIMITSU Seiichi (2024) Report on Geoscience Exhibition in Kyoto 2023.

(受付：2023年11月30日)